

役職歴

【党】

総務会 総務
国土交通部長代理
経済産業・国防・外交 各副部長
教育再生実行本部 事務局次長
畜産・酪農対策小委員会 事務局次長
司法制度調査会 幹事

北朝鮮による拉致問題対策本部 幹事
厚生関係団体委員会副委員長
運輸・交通関係団体委員会副委員長
【政府】
国土交通大臣政務官・内閣府大臣政務官
【衆議院】
農林水産委員会理事

— 「現場主義」の再確認 — 国土交通大臣政務官の職務に従事して

平成29年8月7日に第3次安倍第3次改造内閣において国土交通大臣政務官（兼内閣府大臣政務官）を拝命し、第48回衆議院議員総選挙後の第4次安倍内閣においても再任され、一年二ヶ月の期間、政務官という立場で国土交通行政の推進という責務を全うすることができました。お世話になりました全ての方々に心より御礼申し上げます。

任期を通じて、国土政策、インフラ整備、防災対策、交通政策、観光政策、海上保安等の、国民生活や経済活動等に直結した、まさに国の基盤づくりを担う幅広い分野で、行政の推進に尽力して参りました。

国内では北海道から沖縄まで、道路、河川、鉄道、空港、港湾等の各種インフラの整備状況を確認し事業の推進を図り、また、東日本大震災の被災地、九州北部豪雨の被災地等を訪れ、復旧状況や現場のニーズ、現場で従事する方々の苦労を直接に見て聞いて回りました。また、根室や石垣という海上保安業務の最前線に赴き、現場職員が身の危険を顧みず保安業務に従事する姿を見て、国を守るという職責の重みを再認識しました。他方、各種審議会や検討会等で政策を練り上げ、あるいは、国会で答弁に立ち行政としての説明責任を果たし、さらには全国各地の知事や市町村長の方々をお迎えしてご要望をお受けして参りました。また、国際公務として、国を代表して、アジア、中南米、欧州の各国において、我が国のインフラ輸出事業や発展途上国での都市開発事業の推進や海外要人との折衝や会談、観光や航空関係の国際会議への出席や国際交渉等に従事して参りました。

政務官の職を拝命して以来、常に心がけてきたことは、「国民目線で現場主義で職にあたること」でした。国土交通省には全国約6万の職員の方々が在籍しています。一人ひとりがそれぞれの持ち場で全力で任にあたり、ときには昼夜を分かたず職務に精励し、災害対応等も含め弛むことのない緊張感の中で、我が国の繁栄と発展、国民生活の向上と安全安心の確保等に尽力されています。こうした職員の方々とともに、現場の最前線で、地方自治体の方々等に寄り添いながら、政策の推進や課題の解決に向けて努力するなかで、改めて、政治や行政の基本は、「現場を最も大切にし、自分の目で見て直に現場の声を聞き、現場の課題の解決のために全力を尽くすこと」にあると再確認しました。



総理大臣官邸において政務官集合写真撮影

今後の国土交通行政が抱える課題としては、「災害の激甚化・頻発化に伴う、国土の強靱化や防災施策の一層の強化」、「人口減少下における交流人口の増加のためのインフラ整備や、地域社会を維持するための交通体系の再構築、都市政策及び住宅政策」、「観光の基幹産業化に向けた観光振興施策のさらなる充実」等があり、学んだ知見・経験、築いた人脈等を最大限に活かし、国における議論や政策づくりを推進するとともに、地元県北地域が抱える諸課題の解決と今後のさらなる発展に向け引き続き尽力して参る所存です。皆様方の倍旧のご指導ご鞭撻を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

衆議院議員

やな 和生